

5-1-2	商業の活性化
-------	--------

1	第5次 総合計画 の位置づけ	目 標	商店街が、利便性が高く居心地のいい場となり、大型ショッピングセンターと共生しています。また、まちなかに魅力ある商店が集まり、多様なイベントが開催され、楽しみに訪れた人々で賑わっています。	
2		現状と課題	消費者ニーズや生活スタイルの変化に伴い、利便性の高い新たな大型ショッピングセンターに買い物が流れ、従来の小売・卸売事業者の売上高が減少傾向にあります。また、まちを楽しめる機会の増加が求められています。	
		市が行うこと	地元商業の活性化に向けて、創業者・店舗事業者の支援や来街環境の整備に努め、利便性の向上を図るとともに、イベントや店舗の情報発信などの取組を支援します。	
		事業者が行うこと	地域の安全・安心や利便性向上に寄与する取組を推進するとともに、イベントや店舗の魅力発信等に努め、地域と密着した店舗・商店街づくりをめざします。	
		市民が行うこと	市内でのイベント参加や消費活動に努めます。	
3	背景・現状 現状の課題	○事業主の高齢化、後継者不在による廃業等による地域商業の衰退が、生活利便性やにぎわいの衰退につながる懸念。 ○R2年度に始まったコロナ禍が落ち着く一方、H28年とR3年の統計の比較では、「宿泊・飲食業」「卸・小売業」の事業所数の減少が著しい。 ○中心市街地活性化基本計画に基づく取組、「おにクル」の開館、JR茨木駅・阪急茨木市駅周辺整備、ダムパークいばきたの開業など、新たなまちづくりの動きが進む。		
4	課題解決の ポイント	○地域商業の活性化に向けて、魅力的な店舗の創出や市内商業の認知向上が重要。 → 新規開業の支援 、市内事業所のPR機会の充実 ○まちづくりの動きと連動し、事業者の活動を促進する仕掛けが必要。 → <u>おにクルへの新たな人流を周辺に波及させる工夫（R5年度末の課題より）</u> → <u>まちづくり会社との連携</u> → <u>特産品・お土産等の開発・販売機会の充実</u>		
5	基本取組	商業によるにぎわいの創出	商店街振興に向けた支援	
			駅前商業の活性化に向けた支援	
			活気ある店舗の創出支援	
		商業の販売力の向上	商店の認知向上（PR）支援	
			付加価値向上・開発促進に向けた支援	
			販路拡大支援	

	成果指標	単位	実績値				目標値 (R6年度)	
			R3年度 (策定時)	R4年度	R5年度	R6年度		
6	成果指標	商業者による地域支援や地域活性化に向けた取組件数	件/年	7	7	9		10
		補助制度等の支援による、新規出店件数	件/年	30	22	30		25
7	取組の 評価	R6年度評価	a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	評価理由(R6年度の取組の成果を踏まえた評価)				
		R4年度評価						R5年度評価
		b						a
8	取組に おける課題 (今後の取組)	R6年度末現在の取組における課題						
		課題①						
		課題②						

5-1-3

企業活動への支援

1		目 標	市内企業が操業を継続し、発展成長することにより、地域経済が発展している。
2	第5次 総合計画 の位置づけ	現状と課題	グローバル化、少子高齢化等による産業構造や社会経済情勢の変化を受け、企業にとって厳しい経営環境となっています。企業の操業継続を支援する施策を展開し、市内産業の活性化を図ることが求められています。
		市が行うこと	市内企業への個別訪問やワンストップ相談を通じ、市と企業との関係を深めるとともに、生産性向上に向けた設備投資等を促進するなど、企業の操業継続の支援に努めます。 また、経済の国際化に対応した企業活動に協力できるよう、関係機関と連携を図ります。
		事業者が行うこと	事業者は、産業構造等の変化に対応するため、新製品・新技術の研究開発等に努め、競争力を高めます。
3	背景・現状 現状の課題	○市内での事業継続意向は高いが、規模・価格など意向に合う事業用地の確保が困難。 ○後継者不在等による黒字事業所の廃業が増える懸念がある。 ○経営上の課題として、人材不足を挙げる事業者の割合が高い。 ○小規模な事業所（従業者数9人以下）は、H28年とR3年の統計比較で事業所数が減少し、R5のアンケートで「コロナ禍からの回復に至らない」の回答率が高い。	
4	課題解決の ポイント	○廃業の抑止に向けて事業承継のサポートが重要だが、対象者の発掘・アプローチや支援内容の幅広さなどの問題があり、他の支援機関との連携が必要。 ○企業の人材確保や認知向上に向け、企業の魅力や取組を伝えることが有効。 → <u>オープンカンパニーの継続実施に向けた検討（R5年度末の課題）</u> <u>オープンカンパニーへの学生の参画促進</u> ○ <u>コロナ禍や物価高騰の影響も、引き続き注視は必要。</u> → <u>コロナ関連融資に係る利子補給制度（R5～）</u>	
5	基本取組	市内企業の定着および 経営基盤の強化	人材育成の支援
			人材確保の支援
			支援策等の情報提供および相談受付
			経営基盤の強化支援
			資金繰りの支援
			事業承継に向けた支援
		事業拡大および生産性向上	新規立地・設備投資の支援 付加価値向上・生産性向上に向けた支援 認知向上（PR）支援

6	成果指標	成果指標	単位	実績値				目標値 (R6年度)
				R3年度 (策定時)	R4年度	R5年度	R6年度	
	成果指標	巡回訪問での制度周知による各種支援施策の利用件数	件/年	69	59	76		70
		事業承継に係る支援事業数	事業	4	4	4		5
		中小企業人材育成支援事業の利用件数	件/年	5	5	7		15
7	取組の 評価	R6年度評価	a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	評価理由(R6年度の取組の成果を踏まえた評価)				
		R4年度評価	R5年度評価					
		b	b					
8	取組に おける課題 (今後の取組)	R6年度末現在の取組における課題						
		課題①						
		課題②						

